

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
グローバル展開プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）
評価用研究成果報告書

課題		日本企業のコーポレート・ガバナンスに関するグローバルな発信			
研究テーマ名		日本の企業統治の比較実証分析：所有構造・戦略選択・パフォーマンス			
研究代表者	所属機関	早稲田大学			
	部局	商学学院・高等研究所			
	役職	教授・所長	氏名	宮島 英昭	
委託研究費		単位：千円			
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
6,000	10,000	8,400	5,520		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

本研究の目的は、企業統治構造が投資家や経営者などステークホルダー間の信頼やコミットメントなどを通じて内生的に決定されるとする分析枠組みを設定する一方、これまで構築してきた日本企業の統治構造に関する長期データを増補・拡充し、さらに、それに照応する形で各国のデータを新たに構築することによって、国際比較の視点から日本の企業統治をめぐる諸問題を包括的に解明する点にあった。具体的な課題は、企業統治構造を決定する要因は何か、各国の特性差は何によって規定されているのか、企業統治構造はパフォーマンス、さらに経済成長に本当に実質的な影響を与えているのか、与えているとすれば如何なるメカニズムを通じてか、企業統治に関連する経済制度はいかに進化しているのか、という一連の問題を、銀行危機以降の日本企業の経験を中心に、比較企業統治論的視点から解明する点にあった。さらに、海外との共同研究、国際シンポジウムでの発信、英文単行本の公刊、データ公開などを通じて、日本の企業統治に対する国際的理解の促進を図ることを目的とした。本事業の成果は、次の通りである。

- **企業統治構造の決定：** これまでの日本の企業統治構造（インサイダー保有と内部昇進者優位の構造）の変化の分析を試み、20世紀の株式所有構造の進化に関する論文を *The Review of Financial Studies* に公表した。また、海外機関投資家の役割を解明し、内外の雑誌に公刊した。さらには、取締役会の多様性に関する分析を進め暫定的な成果を得た。研究代表者は、日本の企業統治構造の変化に関する包括的単行本の作成、及び所有構造の進化に関するフランクス(LBS)、メイヤー(Oxford)との共著 *Ownership Matters* の執筆を進めた。
- **統治構造と組織・戦略決定：** 統治構造の変化が、企業のM&A、純粋持株会社の選択、財務選択(負債選択・配当政策の選択)に実質的な影響を与えているかの分析を進めた。また、企業統治制度が、IPO、本社組織の規模、技能形成に関する組織選択に与える影響に関して一次的な分析結果を得た。
- **パフォーマンスの分布と統治構造：** 企業統治制度の変化と経営者の交代、従業員持株会の生産性効果の分析成果を得た。統治構造と企業パフォーマンスの関係では、国際比較の事実の様式化を進め、さらに企業統治制度と、文化的要因、経営者態度を導入した分析について暫定的な結果を得た。

本事業では、計画期間中に3回の国際ワークショップ(UBC、EHES、早稲田)を開催し、本事業の成果を報告する一方、国際共同研究の方向について協議した。また、企業統治ワークショップ(九州大学・平成27年)では、若手研究者に報告機会を与えた。RIETI主催のシンポジウム(平成28年6月)では、本事業の分析中核部分を発表する機会を得た。また、本事業の活動成果は、HPを開設し、日本学術振興会・研究拠点形成事業(A.先端拠点形成型)のHPとの連携を図りながら、成果の公表・普及を進めた。